

令和3年4月
一橋大学

令和3年度一橋大学外国学校出身者選抜学力試験

出題の意図等 【小論文】

課題文は、近年の認知心理学から得られた知見を踏まえ、自らが有していると思われる知識の多くが他者の知識に依存している事実について論じている。自らの知識が他者の知識に依存しているが故に、他者との協力が新たな知識獲得のための鍵となり、自ら所属する多様なコミュニティへの貢献の重要性を再認識することが出題の意図である。

課題文は、翻訳書であるものの、平易に書かれており、専門的知識を特に必要とするものではない。課題文を丁寧に読むことで、著者の主張の基本的骨子を把握する読解能力と、それに基づく考察能力を問うている。

問一 この設問では、課題文の著者の主張を正確に読み取り、簡潔に説明する力を問うている。文中の「恣意的に思える」理由の指示内容として、どのような理由で恣意的であるか、説明できているかが評価のポイントである。

問二 この設問では、課題文の中で注目される概念を正確に読み取り、対比される概念との違いを論理的に説明する力を問うている。個人属性と集団との関係について、その対比を論理的に説明できているかが評価のポイントである。

問三 この設問では、課題文の著者の主張を正確に理解した上で、その成立条件について、論理的な説明能力を問うている。著者の例示を利用しながら、知能に関する個人と集団の関係について論理的に説明できているかが評価のポイントである。

問四 この設問では、課題文の著者の主張を踏まえた上で、本文では直接触れられていない類似事例を列挙し、原因を指摘し、解決策を考察し、提案することを問うている。単なる課題文の読解能力のみならず、本文の内容に合致する事例を自らの経験や観察に照らして列挙し、独自の考察を論理的に展開できるかが評価のポイントとなる。